

特別区長会との意見交換

令和7年12月4日（木）
14時30分～15時00分
東京都庁第一本庁舎7階大会議室

●佐藤総務局長

それでは、ただ今から特別区長会の皆様との意見交換を始めさせていただきます。はじめに、小池知事から一言お願い申し上げます。

●小池知事

座ったままで失礼いたします。皆様、こんにちは。特別区長会の皆様方には、日頃から都政運営に対しまして多大なる御理解、御協力いただいておりますこと、改めて御礼申し上げます。

また、皆様方の御協力の下で、9月には世界陸上が、そして、先月はデフリンピックが大成功を収めることができました。改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

気候危機が深刻化して、アジアでもフィリピンとかインドネシアはひどい状況、タイもそうですかね。そして、人口減少についても加速化しているということで、挙げれば切りがないほど課題が山積して、まさに先行きが見えないというその不安がまた次の不安を呼んでしまう。一方で、AIはですね、皆様方はもう役所の方でお使いになっているかと思えますけれども適度に。テクノロジーの進化は、本当にすさまじく早いということでございます。非常に不安定、不確実、そんな時代に我々は身を置いているということかと存じます。

そういう中で、首都・東京は、激動の中にこそ生まれるチャンスがあるんだと成長を確固たるものにしていこうと。日本を牽引していくということが求められているかと思えます。

都と特別区の皆様方とは、ぜひ力を合わせて、そして明るい未来をどんどんと切り開いていけるそのような関係をさらに構築したいと思っております。

夏には、19項目に渡ります御要望頂戴をいたしております。今日は、改めて皆様方から御意見、御要望を伺って、そして来年度の予算編成に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●佐藤総務局長

それでは、特別区長会の吉住会長から、令和8年度の予算要望に関しまして御発言をお願いいたします。

○吉住新宿区長（会長）

本日はお忙しい中、貴重なお時間を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。区長会会長の吉住でございます。

知事におかれましては、9月にOECDチャンピオン・メイヤーズの副議長に御就任されたとのことで、女性、子供の施策などを牽引していただくなど、国際舞台でも御活躍をいただいております。大変嬉しく拝見させていただいております。

都政におきましても、行政のDX化や防災、環境など多方面に先進的な取組を推進していただいております。心強い限りでございます。御多忙とは存じますが、どうか御自愛いただいて、更なる御活躍いただければありがたいと思っております。

さて、ただいま知事からもお触れいただきましたが、8月に栗岡副知事と面会をしていただきまして、予算編成について19項目の要望書をお渡しさせていただきました。すでに御対応いただいているものもございますが、せっかくの機会でございますので、いくつ

かの項目について改めてのお願いをさせていただきます。

1点目は、「災害対策の充実」です。

9月の記録的な大雨は、特別区でも内水氾濫が起こるなど大きな被害をもたらしました。昨今、気象災害は頻発化、激甚化しており、都心部ならではの課題に向けた広域的な対策や事前の備えが重要となります。とりわけ、帰宅困難者や在宅避難者等への支援の更なる強化は喫緊の課題となります。都区で連携して対応していくためにも、引き続き必要な財政支援をお願いいたします。また、特別区では高層マンション等が多いことから、エレベーターへの閉じ込めを想定した「防災キャビネットの設置促進」等、高層住宅の防災対策の強化に向けた対応をお願いいたします。

2点目は、「子育て支援策の充実」です。

東京都では、保育料の第1子無償化や、無痛分娩費用の助成など、未来を担う世代への支援に注力をしていただいています。特別区も同じ方向性で取り組んでいますが、地域ニーズに応じた子育て支援策の充実が引き続きの課題となっております。

保育環境の維持に必要な不可欠である人材の定着及び安定的な確保に向けた「保育従事職員宿舍借り上げ支援事業」の継続・拡充や、「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を次年度以降も継続していただけるようお願いいたします。

3点目は、「地球温暖化防止対策の推進」です。

東京都は、次世代型太陽電池「Air ソーラー」の普及拡大に努められるなど、環境施策の普及啓発に取り組まれていらっしゃいます。特別区も脱炭素社会の実現に向け、各区で様々な施策に取り組んでおり、特にプラスチックの資源循環の促進が重要と考えております。

区が安定して再資源化事業を安定的に運営するため、「プラ製容器包装等・再資源化支援事業」の補助期間を延長し、財政支援を継続していただくようお願いいたします。

また、プラスチック資源循環促進法では、拡大生産者責任に基づく事業者の費用負担について明文化がされていません。プラスチックの分別収集・選別保管等にかかる区の費用負担が増大しています。脱炭素社会を実現していくため、事業者が中間処理経費を応分に負担をしていく制度を構築するよう、国への働きかけをお願いいたします。

続いて、昨今、都区を取り巻く状況に大きな動きがございました、「火葬場の運営」について、お話をさせていただきます。

現在の墓地埋葬法では、民間火葬場に対する指導権限が曖昧であり、特に火葬料金の妥当性について、行政が介入できない状況が続いています。こうした状況を踏まえ、都と区は11月25日、火葬料金を含む経営管理に関して、監督官庁の指導権限の明確化や火葬料金の設定の考え方に関するガイドラインの整備など、必要な措置を講じるよう、国に法改正等を要望したところでございます。引き続き、都と区で連携し、国への働きかけをお願いできればと思います。

火葬場は公共的な役割を担っていることから、都民・区民が将来にわたって安心して火葬を行える体制の確保が求められています。

公営火葬場の設置も含めた火葬場のあり方については、実態調査をしていただいているところでございます。必要に応じて、火葬能力強化についても、都と区が連携し、検討を進めていければと思います。

本日お話しさせていただいた以外にも、多くの喫緊かつ困難な課題がありますが、昨年度末の都区協議会で合意したとおり、東京の未来を共に創り上げるために、都と区の連携・協力を一層進めてまいりたいと考えております。

今日この後、中村副知事と総務省の方に、ふるさと納税の要請活動に伺わせていただきます。また、今年はかなり総務局様の御協力もいただいて、都と区の間の人材交流も拡大をしてきております。今、連携が非常に進んでおりますので、引き続きコミュニケーションの場を設定いただきまして、しっかりと連携させていただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは、ただ今の御要望につきまして、知事から御発言をお願いいたします。

●小池知事

何点かの御要望が今、新宿区長の方からお話いただきました。私の方からはですね2点。まず「災害対策」、そして、「子育ての支援策」について、お答えしたいと思います。

本当に風水害、激甚化いたしております。大規模な地震などの災害に対しても、これも「備えよ、常に」の精神でハード・ソフトの両面から取組を加速していくことが重要でございます。

今般の補正予算案におきましては、まずは来年夏の集中豪雨に備えました応急的な浸水対策としまして、止水板を設置する区市町村支援をする。そして、一部完成しております施設を活用しまして、雨水の暫定貯留を行うための取水工事や下水の流れを切り替えますバイパス管の工事などを行っていく考えを盛り込んでおります。

また、大都市東京におきましては、お話ありましたようにマンション防災、また在宅避難者への支援、そして帰宅困難者対策、これらはいずれも喫緊の課題でございます。引き続き、区の皆様方と連携しながら都民の安全・安心を守る、そのような取組を進めてまいります。

もう1点が、子育て支援策でございますけれども、やはり望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現、こちら大きな課題でございます。この実現に向けて、ライフステージを通じました切れ目のない支援に取り組んでまいったところでございます。

こうした中で、都内の約9割の子育て家庭においては、東京は子育てしやすいですよということを実感いただいていると、このように数字もでございます。

また、都内におきましては今年の上半期の出生数、1月から6月でございますけれども、10年ぶりになります0.3パーセント増加したという、そのようなこちらにも報告を受けているところでございます。下げ止まりの兆しが見えてきたと言えるかと存じます。

引き続き、都民の皆様方から共感を得られる施策を、共に展開をしていきたいと考えております。

私の方から2点、お話しさせていただきました。続きまして、副知事の方から説明させていただきます。

●栗岡副知事

私の方から2点、「地球温暖化防止対策の推進」と「火葬場の運営」についてお答えしたいと思います。

都は2050年ゼロエミッション東京の実現に向けまして、持続可能な資源循環の推進を図るため、様々な取組を進めているところです。

一般廃棄物の収集等を行う特別区におかれましても、資源循環型社会の実現に向けまして、ごみ減量に加え、プラスチック等のリサイクルが重要な課題となっていることは十分に認識してございます。

都としましては、プラスチックの分別、収集及び再資源化において、区市町村が安定的に取組を実施できるよう、十分な負担軽減策を講じることを国に提案要求しているところであります。

引き続き、資源循環の更なる促進に向けまして、区の実施を後押ししてまいりたいと考えております。

もう1点は、火葬場の件でございます。

先日、吉住会長とともに、国に対しまして、民間火葬場の指導監督に関する法改正等について、共同で要請してまいりました。

火葬に関する都民の関心は非常に高く、都民が、将来にわたって安心して火葬を行える体制を確保していくことが重要だというふうに考えております。

多死社会を背景とした火葬需要の増加を見込まれてございまして、都では、都内全体の火葬場の現状を精緻に把握するため、実態調査に着手したところでございます。

今後、都内全体の死亡者数の長期的推計などの状況を十分踏まえて把握した上で、火葬場についても区とも緊密に連携しながら、様々な観点から検討してまいりますので、共に取り組んでいければと考えてございます。よろしくお願いいたします。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは、本日御出席の区長の皆様からも、御発言をお願いしたいと思います。はじめに、服部副会長から御発言をお願いいたします。

○服部台東区長（副会長）

まず、私からは「熱中症対策」についてです。

今年の夏は、本当にこの記録的な猛暑が続きまして、消防庁の今年5月から9月にかけて、熱中症による救急搬送者が全国で10万人を超えて、調査を開始した平成20年以降で最も多い搬送人員となったと発表がありました。また、年齢区分別では、やはり高齢者が全体の57%で最も多いわけですが、現在、区としては、熱中症対策として、クーリングシエルトを都有施設も含めて30カ所を指定して対応しているほか、これは区独自の施策として、区有施設のほかに民間施設、例えば信用金庫さん、あるいは薬局など御協力いただいて、「涼み処」を設けて、対策を進めています。

一方、台東区は、夏の時期に、例えば浅草のサンバカーニバルとか、数多くのイベントが開催されるほか、国内外から大変多くの方々が訪れておりまして、より多くの指定を行う必要があります。熱中症対策ではこれまで都区連携をして取組を進めていますが、区内の都有施設の更なる活用を御検討いただいて、来年以降の暑さ対策の一層の充実をお願いいたします。以上です。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは、斉藤副会長からお願いいたします。

○斉藤江戸川区長（副会長）

私からは、「水辺の豊かな環境の保全・活用」の取組についてお話をさせていただきます。

23区は、すべての区が川や海と接しておりまして、水辺は多くの都民にとって身近な存在だと思っています。水辺の魅力を向上させることは、都全体の魅力向上につながるのではないかと考えております。例えば、川に関しては、今後も都と協力しながら、川辺を活用したイベントの開催など、水辺に親しめる環境づくりを展開していければと思っております。また、海辺の環境としましては、本区にあります都立の葛西海浜公園、ラムサール条約の登録地でありますけれども、毎年夏に海水浴を行うことができる場所でございます。今年も海水浴に43日間で5万9000人の方が訪れております。東京駅というセントラルステーションから海水浴ができるのはロンドン、パリ、ニューヨークにもないと言われておりますので、こういったことも世界に誇れるものではないかと思っております。

一方で、豊かな水辺の環境は、災害リスクとも表裏一体だと思っています。先ほど知事から水害対策のお話もいただきましたけれども、堤防の整備や高台まちづくりなどにつきましても、引き続き、都と協力しながら進めていければと考えております。今後も防災機能を向上させながら、世界に誇る豊かな水辺環境の魅力を発信して、保全活用に努めていければと考えております。以上です。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは高際副会長、お願いいたします。

○高際豊島区長（副会長）

私からは2点申し上げたいと思います。

1つ目は、吉住区長からも、また、先ほど知事からも御発言ございました、「マンションの防災対策の強化」についてであります。本区では、7割、8割の住民が共同住宅に居住しているという状況で、マンションの住民向けの防災対策には一段と力を入れたいと思っています。

一方で、本気でやろうとしますと、マンションの棟数が多い。現在1246棟とどんどん増えております。そうした棟数が多いこと、また、マンション側にとっても、支援の規模が小さいと、なかなか面倒くさくて手を挙げてくれないという状況がありまして、本気でやろうとすると相当経費がかかることが予想されます。

そうした中、「東京とどまるマンション」への登録で受けられる助成というのは、とても充実していてありがたいなと思っておりますので、ぜひぜひ継続をしていただきたいと思います。特に、その中でも、ハード面での助成もいくつかメニューございますけれども、その充実、それから私どももその登録支援に1つでも2つでもつなげていくために頑張りたいなと思っておりますので、こうした区の取組についての御支援も御検討いただけるとありがたいと思います。

それから2点目は、全国的な課題でもあります「介護人材の確保、定着」に対する施策についてです。この介護人材は慢性的な不足が続いてまして、今後さらに深刻化が予測されるという中におきまして、これも東京都の支援は区内事業者にとって大変大きな支えとなっています。引き続き、ぜひ補助事業の継続、そして充実を御検討いただけるとありがたいと思います。

そしてまた、介護業界のこの処遇改善が、ずっと言われながらもなかなか進まないということが、やはり人材確保が難しい理由の大きな一つであると考えますので、介護保険料の上昇を抑えつつも、介護報酬をしっかりと引き上げられるような新たな制度設計を含む介護保険制度の充実について、ぜひ、引き続き国へ強く御要請をいただきたいと思います。以上です。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは、清家港区長、お願いいたします。

○清家港区長（幹事）

私からは、2点、今回の要望に沿ってお話をさせていただきます。

まず、「高層住宅の防災対策」についてです。港区も、住まいの9割、住民の9割が共同住宅に住んでいるという状態になっておりまして、高層マンションの防災対策というのが最重要課題であると認識をしているところです。先ほど、高際区長の方からもお話がありましたが、「東京とどまるマンション」の助成は、大変画期的な取組であると思っております。これをもっともっと進めていただきたいと思います。思っております。

マンションの耐震化というものは非常に進んでいるのですが、首都直下地震の想定で1,300台以上エレベーター閉じ込めが起きるとなっておりまして、やはり区民の最大の関心事というのは、エレベーターに閉じ込められた時にどうなるのか、というところにあります。これまでもいろいろなところで発言させていただいておりますが、まず実態調査というものを共に進めていけると、それが見える化につながることで、対策を講じたり、また安心につながっていくものだと思いますので、ぜひそうした点を特別区長会との密接な連携を通じた取組の推進ということについて、お願いをしたいと思っております。

また、「火葬場の運営」につきましては、公衆衛生及び公共の福祉の観点から支障なく行われることが求められていると思っております。現在、実施いただいております実態調査を踏まえたあり方の検討、そして国への積極的な働きかけについて、よろしくお願い申し上げます。私からは以上になります。

●佐長総務局長

ありがとうございました。それでは、山田北区長からお願いいたします。

○山田北区長（幹事）

はい、北区から2点、発言をさせていただきます。

1点目は、CAIO 補佐官などの「AI 活用に向けた自治体の挑戦の後押し」についてです。東京都 AI 戦略における、「AI を利活用しないことが最大のリスクである」という考え方に大いに共感をさせていただいています。また、生成 AI アプリ作成プラットフォームの整備など、日頃からの様々な支援に対して心から感謝申し上げます。

一方で、先ほどお話もありましたが、AI の発達はスピード感が目覚ましく、早ければ2026年にはAGI、これは汎用人工知能、そしてその先には、人工超知能と言われるASIなどが登場すると言われています。そのような将来を見据えて、北区では、行政のあらゆる場面でAIを活用していこうとスローガンに掲げまして、文章生成AIの導入ですとか、AI活用に向けたRFIによる民間事業者との実証実験をすでに始めています。新年度には、機密情報保護などのリスク対策を見据えた上で、徹底的にAI活用を進めるための専門人材であるAI統括責任者、CAIO補佐官の確保にも取り組んでいます。オール東京でAI利活用を推進するには、自治体独自の取組への後押しも重要だと思っております。CAIO補佐官や民間企業との実証実験、AIシステム実装などのAI活用に向けた挑戦への財政支援と一層の伴走、御支援について特段の御配慮をいただきたいと思います。

そして2点目は、「教育CIO」についてです。文科省では、以前から教育CIOの必要性について述べられています。次期学習指導要領の論点整理が先日示されましたが、この中では、デジタル学習基盤を前提とした、これまでとは一線を画した指導や学びのあり方が、大きなポイントの一つになっています。ギガ端末の単なるツールとするだけではなく、今後はAIなどを含めて子供たちの教育にどのように落とし込んでいくか、デジタルのベストミックスを進める必要があると考えています。そのためには、教育現場におけるCIOの適切な活用をさせ、推進する専門的な知識と実践力を持ったリーダーの存在が不可欠だと思います。北区では、来年度、都で進めている次世代公務DXの推進や新たな教育指導要領の改定を見据え、教育に具体的にデジタルを落とし込んでいくための教育CIO設置を目指し、まず補佐官という立場で人材を確保しました。東京都としても、教育の知識を持った方がICTやAIの活用ができる人材を育成するとともに、支援チームを設置するなど、教育DXをさらに進めるための取組をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。以上です。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは鈴木大田区長からお願いいたします。

○鈴木大田区長（幹事）

先ほど吉住会長からも御発言がございました、「災害対策の充実」、「子育て支援策の充実」の2点について、私からもお願いをさせていただきます。

まず、災害対策については、止水板設置費用の補正予算案への計上など、御対応をいただき、ありがとうございました。集中豪雨に対して、区民の皆様の安全安心な暮らしを守るために、高台まちづくりを含めまして引き続き、早期の浸水対策に対して、より一層の事業推進をお願いいたします。

次に、子育て支援策については、私が区長に就任して以来、子供政策については特に力を入れており、子育てナンバー1都市を目指すことを宣言し、その実現に取り組んでおります。「（仮称）大田区子ども家庭総合支援センター」の整備についても、引き続き、都との緊密な連携を図り、子供と家庭を支える準備を進めてまいります。

また、新空港線については、10月3日付けで国の認定、第一期整備事業の速達性向上計画を受けまして、鉄道事業として認可されました。都と区で、お互いに連携して取り組んできた成果が現れたものと感じております。これまでの御支援に、改めて感謝を申し上げます。

ます。今ですね、進化する将来の蒲田の東西の町の姿を映像で区民にPRする、そんな準備を進めてございます。引き続き、都との協力が不可欠でございますので、更なる連携と御支援をお願いいたします。私から以上でございます。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。それでは、最後に知事からまとめの発言をお願いいたします。

●小池知事

それぞれの区の特徴も含めて、御意見をいただいたところでございます。

今回頂戴いたしました御意見、そして御要望を踏まえて、「2050 東京戦略」にもいっばい盛り込んでいただいておりますが、それを現実にしていくその推進、また来年度予算の編成に取り組んでまいりたいと思います。

これまでの常識を超えるような脅威をもたらす気候変動でございます。今日は殊の外寒いと言いますが、夏の暑さの真反対で、今度は寒さ対策ということも必要なぐらいの気候変動、そして長引く物価高騰ですね、東京やまた東京都民の生活を取り巻く環境というのは、いろんな意味で一層の厳しさを増しているところでございます。

こうした課題を解決し、また、東京より一層成長・発展させていく、そのためには、皆様方、区、そして都がこれまで以上に協力・連携するということが不可欠だと思います。

国においては、今、都の財源を念頭に、いわゆる「偏在是正措置」が議論をされているところでありますけれども、これはもうかねてから申し上げておりますように、このパイの奪い合いをしているようではいけません。そして、地方の権限をいかに高めるのか、そして税源の移譲をいかに進めるのかなど、地方全体の財源の充実や確保こそが重要だと考えております。

昨年度、未来の東京を共に作り上げるということで合意が実現をしております。そして、この合意の下で大都市東京を共に支えるパートナーとして、世界で一番の都市・東京を目指し、オール東京で取り組んでいきたいと思っております。共に頑張ってもらいましょう。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

●佐藤総務局長

ありがとうございました。昨年の合意通り、引き続き、特別区と都で緊密に連携をしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、本日の意見交換会を終了いたします。ありがとうございました。

以上